

2020年6月12日

当院で冠動脈 MRI を受けられた患者さん・ご家族様へ

研究へのご協力をお願い

当院では、以下の臨床研究「非造影核磁気共鳴画像法 (MRI) を用いた 冠動脈インターベンション周術期心筋障害予測法の定量化に関する研究」を実施しております。この研究は、倫理委員会の承認のもと、通常の診療で得られた記録のみを解析するものです。今回の研究では、冠動脈 MRI を施行した患者さんの画像所見に対して、人工知能による人間の脳に近い学習技術 (深層学習) を用いた画像認識技術を使って研究を行います。すでに「非造影核磁気共鳴画像法を用いた 冠動脈インターベンション周術期心筋障害予測法の確立」の研究で撮影された冠動脈中の破綻しやすい危険なプラーク (不安定プラーク) 領域を、自動抽出する方法を確立することを目的としています。人工知能の利用に必要なデータ加工についての専門的知識を必要とするため、これらの専門的知識と経験を有する株式会社フィリップス・ジャパンと当センターとの間で共同研究契約を締結した上で実施します。研究のために、新たな検査などは行いません。

この案内をお読みになり、ご自身または家族がこの研究の対象者にあたると思われる方の中で、ご質問がある場合、またはこの研究に「情報を使ってほしくない」とお思いになりましたら、遠慮なく下記の担当者までご連絡ください。ただし、すでに解析を終了している場合には、研究データから情報を削除できない場合がありますので、ご了承ください。

【対象となる方】2012年8月～平成2018年7月の間に、当院で冠動脈 MRI が行われた方

【研究課題名】非造影核磁気共鳴画像法 (MRI) を用いた 冠動脈インターベンション周術期心筋障害予測法の定量化に関する研究

【研究責任者】西村 邦宏 予防医学・疫学情報部 部長

【研究の目的】冠動脈中の不安定プラーク領域を、自動抽出する方法を確立すること

【利用するカルテ情報・資料】

性、年齢、併存疾患 (高血圧、糖尿病、脂質異常症、虚血性心疾患、心房細動、喫煙指数、慢性腎臓病、慢性肝臓病、アルコール性肝炎) 腎機能 (血清クレアチニン値)

冠動脈インターベンション前後での血清高感度トロポニン T 値。血管内超音波 / 冠動脈光干渉断層像 / 血管内内視鏡による冠動脈硬化巣評価。病変長、動脈硬化巣性状、血栓の存在の有無

冠動脈 CT を術前に撮像している症例では動脈硬化巣の性状評価

動脈硬化巣 CT 値、プラーク容積、病変長

カテーテル治療中に塞栓症が起こった症例では、回収した病理組織所見

【外部機関への研究データの提供】あり

(提供する情報：お名前、住所などの個人を特定する情報を除いた冠動脈 MRI 画像)

提供先機関の名称：株式会社フィリップス・ジャパンおよび Philips India Ltd

責任者：

相澤仁 (株式会社フィリップス・ジャパン Solution CoE Leader) (研究全般の監督業務)

Vijayananda J (Philips India Ltd Fellow Architect) (研究全般の監督業務)

【研究期間】倫理委員会承認日より 2022年3月31日まで (予定)

【個人情報の取り扱い】

お名前、住所などの個人を特定する情報につきましては厳重に管理を行い、学会や学術雑誌

等で公表する際には、個人が特定できないような形で使用いたします。
【問合せ先】

国立循環器病研究センター
予防医学・疫学情報部 部長 西村邦宏
電話 06-6170-1070(代表) 内線 (31192)